



内閣府

2022 重大 News



沖縄総合事務局

国有財産の活用等により 災害対応を支援

2022.1【財務部】

令和3年8月の小笠原諸島沖の海底噴火により生じた軽石が、県内の海岸等に大量に漂着し、船舶の航行、漁業、観光等に対する様々な被害が発生しました。財務部では、沖縄県及び未利用国有地等が所在する市町村に対して使用可能な国有財産リストの提供を行ったところ、沖縄県より、漂着した軽石の回収にかかる仮置き場として利用したい旨の連絡があり、糸満市所在の国有地(9,078.34㎡)の無償貸付(令和4年1月4日～令和5年3月31日)を行い、地域の喫緊のニーズに対応しました。



【港に漂着した軽石】



【無償貸付中の国有地（仮置きされた軽石）】

【参考：災害復旧補助事業】

軽石漂着により被災した公共施設（漁協、港湾）について、速やかに災害査定に立ち会い、復旧に関する事業費（復旧費の一部を国が補助）の決定に同意し、災害からの復旧を支援しました。



【災害査定立会の様子】

「災害復旧補助事業」とは、地震や台風、豪雨等の自然災害により、道路や河川等の公共用施設や農業用施設等が被災したときは、被災した公共施設等の管理者（地方公共団体等）がその復旧を行うことになりますが、一定の要件の下、国がその経費の一部を負担又は補助する制度です。

財務部は、災害復旧補助事業費の決定にあたって、財政を主管する財務省の立場から、主務省の災害査定官が行う査定に立ち会うこととされています。

沖縄の鶏卵を海外へ！

～ 県内農林水産物では初めての輸出事業計画 が認定されました～

2022.3【農林水産部】

沖縄からシンガポール及び香港への鶏卵輸出に取り組んでいる「琉球飼料・瀬底養鶏場・エングループ輸出拡大コンソーシアム」の輸出事業計画が、令和4年3月に、県内農林水産物では初めて農林水産大臣の認定を受けました。

瀬底養鶏場は、平成13年にシンガポール向けに鶏卵の輸出を開始し、その後、平成31年に他産地との差別化を図るため、同コンソーシアムの3社で共同して独自の配合飼料を開発するとともに、ブランド卵「沖縄卵」の生産・輸出を開始しました。



エングループ沖縄がシンガポールで展開する

飲食店「たまご園」



卵かけご飯（TKG）

卵白をメレンゲにし、アボカドや海鮮をトッピング

その後も輸出先のニーズに合わせたオリジナル飼料の開発や、輸出事業者であるエングループ沖縄が現地で展開する飲食店で「卵かけご飯」等のメニュー化を行うなど、生産から販売まで連携した取組を実施したことにより、同コンソーシアムのシンガポール及び香港向けの鶏卵輸出量は、令和元年の42トンから令和2年には189トンへと大幅に増加しました。

今後は、輸出事業計画の認定を受けたことにより、税制特例や農林水産省の補助事業における優遇措置などの支援策を活用することができ、更なる輸出拡大が期待されます。

日本産鶏卵の令和2年の輸出量は約18,195トンで、平成27年の2,312トンと比べ、この5年間で7.8倍と大幅に増加しています。

生食できる日本産鶏卵の人気の高まっていることから、今後は「沖縄卵」のブランド化を推進し、当局も同コンソーシアムと連携を図りながら、県産鶏卵の更なる輸出拡大に向けて取り組んでまいります。

【琉球飼料・瀬底養鶏場・エングループ輸出拡大コンソーシアムの鶏卵の輸出実績】

鶏卵	(令和2年)	現状 (令和3年)
輸出額(千円)	約58,030千円	約98,629千円
輸出量 (t)	189.3 t	288 t
輸出先国	シンガポール・香港	シンガポール・香港

「果報庭（かふうなあ）」

～ 果報をもたらしてくれる（出会いの）場（庭）～

2022.3【経済産業部】

「果報庭（かふうなあ）」とは、沖縄地域在の宿泊事業者と同地域在の中小事業者等のより一層の連携に向け、相互の情報をシェアし合う場のことです。

令和4年3月19日にリザンシーパーク谷茶ベイにて展示会場、商談会場を設け、開催しました。当日は62社の中小企業者等と32社の宿泊事業者が参加し、多くの情報交流が図られ、51組の商談が行われました。

参加した宿泊事業者からは「県産品をより知る機会となった。」、「普段出会えない業者さんと商品を発見することや体験することが出来た。」等の声や、中小企業者等からは「宿泊事業者と直接話ができる機会はありがたい。」、「宿泊事業者と関係性が構築できた。」等の声のほか、「参加事業者同士で情報交換できる点もよかった。」との声をいただきました。

今年度も3月の開催に向けて調整を行っております。宿泊事業者と中小企業者等が出会い、お互いを知り、両者の連携の深化が図られることで、観光の稼ぐ力の向上はもとより、観光地としての沖縄の魅力向上、地域の中小事業者等の稼ぐ力や魅力向上に繋がることを期待しております。



↑ 展示会場の様子 →



↑ 商談会場の様子 →



NHKドラマ「ちむどんどん」の放送に合わせ 管内の農林水産物等について局 SNS で紹介

2022.4～9【農林水産部】

令和4年4月12日から9月30日までの期間、沖縄県を舞台としたNHK朝の連続テレビ小説「ちむどんどん」が放送されました。沖縄総合事務局農林水産部では、若手有志職員によるチームを結成し、番組内で登場した沖縄料理や沖縄特有の農林水産物について、独自の視点で局SNSにおいて紹介する取組を行いました。「ちむどんどん」が放送された平日の夕方に1件投稿を行い、合計で116件の投稿を行いました。

「結納菓子」や「沖縄そば」の投稿などが、他の投稿に比べて多くのインプレッション（閲覧）数や、リツイート数を記録しました。

今後も引き続き沖縄料理や沖縄特有の農林水産物等の魅力発信に取り組んでまいりますので、局 SNS をぜひご覧ください。

<沖縄総合事務局公式 Twitter>

<https://twitter.com/okisokyoku>

<沖縄総合事務局公式 Facebook>

<https://www.facebook.com/okisou.naikakufu/>



若手有志職員による SNS 投稿チーム

多くのインプレッション（閲覧）やリツイートを記録した投稿



7月25日の投稿
「結納菓子」



9月14日の投稿
「沖縄そば」

今春2事業開通

与那原バイパス 暫定開通／浦添拡幅 暫定開放

2022.4【開発建設部】



与那原バイパス

令和4年3月6日（日）、国道329号与那原バイパス（与那原町与那原～南風原町与那覇間2.2km）が暫定2車線開通となりました。与那原バイパス4.2kmの全線開通により、交通分散による国道329号の現道の渋滞が緩和されました。また、東海岸地域から県立南部医療センターへのアクセス性が向上し、地域の医療活動にも寄与しています。



開通状況



南風原方面を望む



浦添拡幅

令和4年3月27日（日）、国道58号浦添拡幅事業（浦添市城間～那覇市安謝間2.9km）が暫定8車線開放となりました。国道58号では、沖縄本島南部西海岸～中部エリアを結ぶ安謝交差点～城間交差点間を県内初の8車線に拡幅することにより交通渋滞が緩和されました。



開放状況



那覇方面を望む

沖縄文化・センターゾーンリニューアルオープン

～おきなわの歴史文化を未来につなぐ～

国営沖縄記念公園／海洋博覧会地区

2022.4【開発建設部】

沖縄文化・センターゾーンは、沖縄の海と島（伊江島）を眺望し、花や水を楽しむ空間においてにぎわいとくつろぎを感じることや、沖縄、東南アジア・太平洋地域の海の文化や沖縄の伝統的な生活文化を学び、体験することができる当公園の中心ゾーンです。

平成29年3月に更新された海洋博公園基本計画に基づき、当該ゾーンの更なる利用促進を図るため、主な施設等の魅力と満足度をより高められるよう施設の再整備を行い、令和4年4月にリニューアルオープンしました。

今回、リニューアルテーマ「おきなわの歴史文化を未来につなぐ」に基づくハードソフトの整備により、おきなわの歴史・文化に触れ、どの世代にも楽しみながら学べる施設になりました。生まれ変わった「沖縄文化・センターゾーン」へ是非お越しください！！



体の動きに合わせて魚が反応
(インタラクティブ映像)

4月23日（土）に沖縄文化・センターゾーンリニューアル式典を開催しました。式典は地元関係者・沖縄県等関係機関・工事関係者等多数参加のもと開催され、式典後は新しくなった施設等の案内を行いました。



本部町長の来賓あいさつ



オープン式典（テープカット）



施設案内の様子

船舶運航事業者への安全に関する取組
～ 旅客船による事故の再発防止に向けて～

2022.4【運輸部】

令和4年4月23日に北海道知床で遊覧船の事故が発生しました。痛ましい当該事故の重大さから、全国において船舶運航事業者への緊急安全点検が実施されたほか、当該事故を踏まえて設置された「知床遊覧船事故対策検討委員会」において旅客船の総合的な安全対策の検討が行われ、同年7月14日に中間取りまとめ公表されました。この中で、「抜き打ち・リモートによる監視の強化」、「通報窓口の設置等による機動的な監査」、「監査時の無線設備の通信状況の確認」、「管理者の資格要件審査の厳格化」及び「国による安全情報の提供の拡充」が速やかに講ずべき事項とされ、11月1日、船舶安全法の法定無線設備から携帯電話を除外する措置の適用が開始されました。

【当局の緊急安全点検実施の様子】



【知床遊覧船事故対策検討委員会中間取りまとめ概要】

2. 知床遊覧船事故対策検討委員会 中間取りまとめ（概要）

 国土交通省

安全対策を「重層的」に強化し
安全・安心な小型旅客船を実現

①事業者の安全管理体制の強化

- ・管理者への試験制度の創設
- ・事業許可更新制度の創設
- ・運航の可否判断の客観性確保
- ・地域の関係者による協議会を活用した安全レベル向上

②監査・行政処分の強化

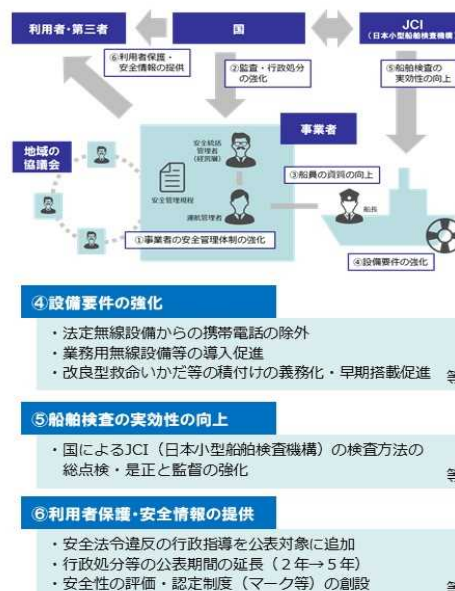
- ・海事監査部門の改革
(徹底した意識改革、通報窓口の設置、
抜き打ち・リモートによる監視の強化、
裏取り・フォローアップの徹底、
自動車監査等のノウハウ吸収、監査体制の強化等)
- ・行政処分制度の抜本的見直し
(違反点数制度、船舶使用停止処分の導入等)
- ・罰則の強化 (拘禁刑、法人重課等)
- ・許可の資格期間の延長 (2年→5年)

③船員の資質の向上

- ・船長の選任要件の創設
(事業用操縦免許の厳格化(修了試験の創設等)、
実船・実海訓練、乗船履歴)

※今後、事故調査等を通じて明らかになる課題があれば、必要に応じ、検討を行う。また、「平水区域以外の旅客不定期航路事業の小型旅客船・事業者」以外の船・事業者への適用の要否を検討する。

※年内に安全対策の最終とりまとめを行う。



沖縄復帰50周年記念式典の開催

2022.5【総務部】

本土復帰 50 周年を迎えた令和 4 年 5 月 15 日、政府と沖縄県共催の沖縄復帰 50 周年記念式典が開催されました。式典は、天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、御所、沖縄会場、東京会場をオンラインでつないだ三元中継で行われました。沖縄会場には、岸田総理、西銘沖縄担当大臣、玉城知事、赤嶺県議会議長等が、東京会場には、細田衆議院議長、山東参議院議長、大谷最高裁長官、ラーム駐日米大使等が出席し、沖縄と東京で約 1300 名の参加がありました。

式典終了後には、記念レセプションが開催され、復帰 50 周年を祝いました。

○沖縄復帰 50 周年記念式典



天皇皇后両陛下の御臨席



西銘大臣の開式のことは



岸田総理の挨拶

○記念レセプション



古酒仕次の儀



琉球民謡・舞踊



空手



フィナーレ

50 周年記念関連のイベント（総務部関係）

【沖縄復帰 50 周年記念講演会の開催（10/13）】

復帰から今日までの沖縄振興を振り返り、新たな沖縄振興について考えていくための一助となるよう、沖縄復帰 50 周年記念講演会を開催いたしました。

講演会の動画は、YouTube で公開中

【パネル展の開催】



【講演会の様子】



宮平栄治氏



上間喜壽氏

沖縄復帰・沖縄総合事務局設置
50 周年記念パネル展(5/2～27)

復帰後半世紀にわたる沖縄総合事務局の広範多岐にわたる取組を展示しました。



パネル展の様子

元職員インタビュー
動画放映

米軍施設返還跡地まちづくり
パネル展(4/28～5/13)

米軍施設返還跡地のまちづくりを紹介するパネル展を、北中城村、北谷町、宜野湾市（開催日順）と共同で開催しました。



展示例：ライカムの跡地利用



沖縄公正取引室パネル展
(8/23～9/2)

公正取引室の開設から現在に至るまでのあゆみや、公正取引委員会委員長談話、公式マスコットキャラクター「どっきん」の紹介など、多岐にわたる展示を行いました。



パネル展の様子 どっきんによる下請法の解説



沖縄復帰50周年記念貨幣の発行

2022.5【財務部】

沖縄復帰 50 周年記念貨幣が財務省から発行（5 月 15 日募集開始）されました。一万円金貨の表面は、首里城正殿と琉球舞踊「四つ竹」、裏面は、伝統工芸「紅型」がデザインされています。また、千円銀貨の表面は、首里城正殿とノグチゲラ（県鳥）とデイゴ（県花）、裏面は、伝統工芸「紅型」がデザインされており、金貨、銀貨とも沖縄の自然、文化が詰まったデザインとなっています。なお、この記念貨幣は、素材に貴金属を使用し特殊な技術を用いて製造されることから、貨幣の製造等に要する費用が額面価格を上回るプレミアム型（販売型）の記念貨幣となっています。

一万円金貨幣		千円銀貨幣	
			
図柄(表面)	図柄(裏面)	図柄(表面)	図柄(裏面)

過去に発行された沖縄関連の記念貨幣

これまで、4 種類の沖縄関連記念貨幣が発行されています。

記念行事	年銘	図柄(表)	図柄(裏)	額面	形式	発行枚数
沖縄国際海洋博覧会 記念100円白銅貨幣	昭和 50年	守礼の門、 穏やかな波	シンボルマーク、 左右にマス コットマーク	100円		12000万枚
沖縄復帰20周年記念 500円白銅貨幣	平成 4年	首里城正殿	昇龍	500円		2000万枚
地方自治法施行60周年 記念貨幣（沖縄県分） 千円銀貨幣	平成 24年	首里城と 組踊	雪月花	1,000円		10万枚
地方自治法施行60周年 記念貨幣（沖縄県分） 五百円バイカラー・ クラッド貨幣	平成 24年	那覇 大綱挽と エイサー	古銭の イメージ	500円		176万枚

記念貨幣について

「通貨の単位及び貨幣の発行等に関する法律」において、「国家的な記念事業として閣議の決定を経て発行する」と定められています。

また、記念貨幣の発行枚数や図柄等については、記念貨幣ごとに政令で定められます。

なお、記念貨幣には、額面価格と同額で金融機関において引換えを行う「引換型」と、額面価格を上回る価格で造幣局が販売する「販売型」があります。

官民合同チームによる 「伴走型支援」をスタートしました！

内閣府沖縄総合事務局経済産業部は、一般社団法人沖縄県中小企業診断士協会とともに「官民合同伴走型支援事業」をスタートしました。

本事業は、経営者・従業員と対話を重ねながら、「プロセスコンサルティング^(※)」の手法を活用し、経営者が本質的な経営課題に気づき、納得感と当事者意識をもった能動的な行動（自己変革力）によって経営構造の転換、潜在成長力を引き出すもので、関東経済産業局の取組を参考としています。

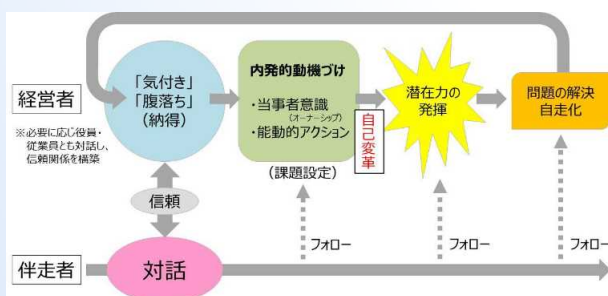
(※)「プロセスコンサルティング」・・・「傾聴と対話」を通じてクライアントとの信頼関係を構築し、当事者の「気づき」に基づき、組織の変革に向けて「自ら行動」を計画・実行する過程（プロセス）を支援するコンサルティング手法。

地域経済への影響力が大きいと考えられ（地域未来牽引企業等）、成長志向を有し、生産性の向上に積極的に取り組む意思がある管内の企業を支援対象とし、食品・泡盛製造業、卸売・小売業、サービス業を営む5社を支援中です（11月末現在）。

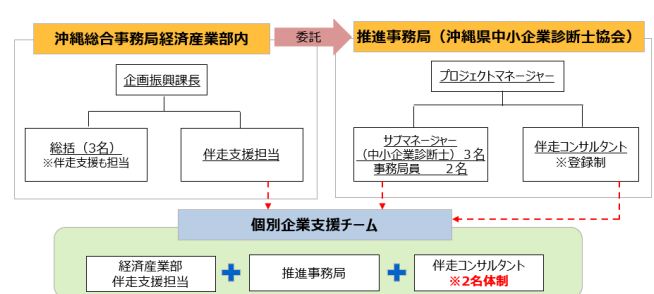
支援体制としては、支援対象企業ごとに、沖縄官民合同伴走型支援事業推進事務局（沖縄県中小企業診断士協会内）、沖縄総合事務局経済産業部職員、伴走コンサルタント（中小企業診断士等）からなる「官民合同チーム」を組成し、一体的に支援を行います。

本事業を通じて、経営者が自社の改革を遂行するために必要な経営力を身につけ、「稼ぐ力」を強化することで、良質な雇用の創出及び企業成長、「成長と賃金分配の好循環」による県民平均所得の向上を実現することを目指します。

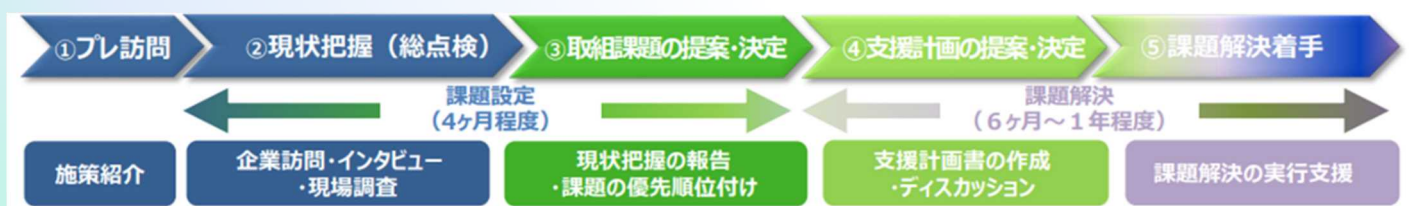
【伴走支援モデルのフレームワーク】



【支援体制】

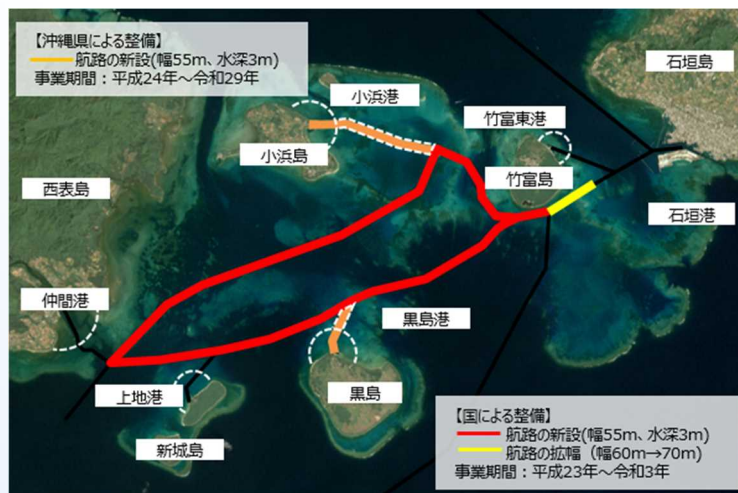


【官民合同伴走支援の流れ】



竹富南航路の整備完了！ ～八重山・離島航路の安心・安全へ～

竹富南航路整備事業は、八重山圏域の物流・人流の拠点港である石垣港と竹富町の各離島を結ぶ重要な生活・観光航路です。復帰直後の昭和49年に開発保全航路として政令指定され、昭和56年に供用を開始しました。年々増加する旅客や貨物、船舶の大型化に対応するため、平成23年に延長45kmの航路拡幅事業に着手して、令和3年に竹富南航路整備事業が完了しました。竹富南航路の整備完了により、船舶の航行安全が確保され、住民生活の安定に寄与するとともに、離島観光の利便性の向上が図られます。



令和3年度末に事業が完了し、供用開始したことから、令和4年7月31日(日)にユーグレナ石垣港離島ターミナルにて西銘沖縄担当大臣(当時)、県選出国會議員・首長等のご臨席の元、完成式典を挙行了しました。併せて石垣港湾事務所所属の新業務艇「せきせい」のお披露目も行いました。



産学官連携による今後の取組の方向性 ～ 沖縄の観光再生と人材ビジョン～

国立高等専門学校機構沖縄工業高等専門学校による観光人材の育成に資する新コースの開設を産学官連携で推進する体制を構築するため、観光人材育成の産学官協議会を開催し、協議会での議論を踏まえ、「産学官連携による今後の取組の方向性～沖縄の観光再生と人材ビジョン～」をとりまとめました。

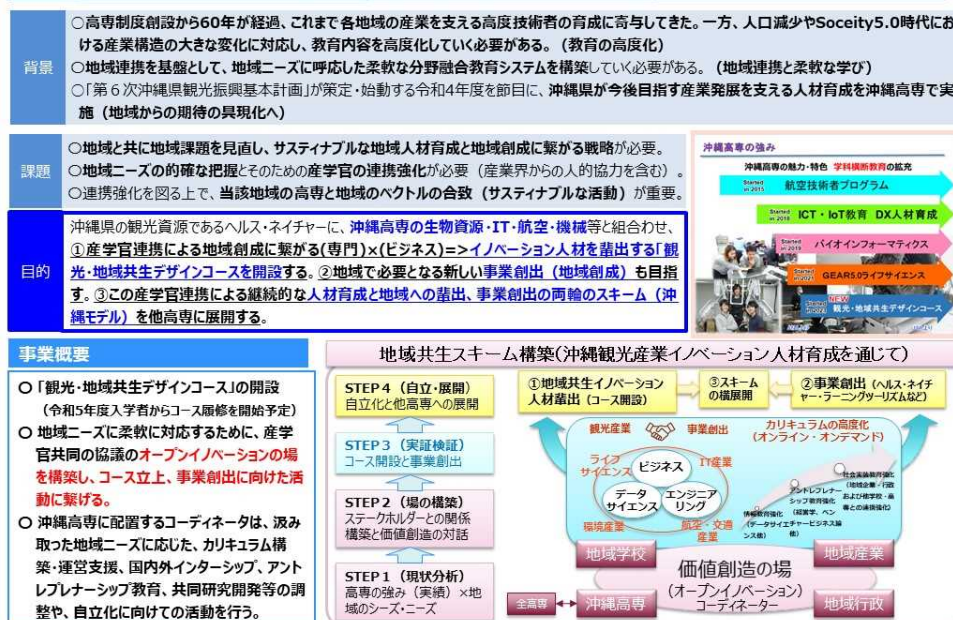
今後は、とりまとめに基づき、産学官が連携し、国立高等専門学校機構沖縄工業高等専門学校におけるDXと観光経営に関する新コース「観光・地域共生デザインコース（仮）」の開設及び内容の充実に向けた取組を進めるとともに、卒業後の更なるキャリア形成・成長を実現するための環境づくりを推進してまいります。

■産学官連携による今後の取組の方向性～沖縄の観光再生と人材ビジョン～から抜粋



■観光・地域共生デザインコース（仮）の概要

観光・地域共生デザインコース(仮)～沖縄観光産業イノベーション人材育成～2023/4～コース設置 参考資料1



新たな魚市場が完成

～糸満漁港に新荷捌施設が完成し、初セリ式が行われました～

施設の老朽化等に伴い、沖縄県漁業協同組合連合会の産地市場機能を泊漁港から糸満漁港へ移転・統合するため、令和元年から国の水産基盤整備事業により整備が進められてきた新たな荷捌施設（魚市場）が完成し、供用が開始されました。

新魚市場は、那覇空港までのアクセスも良い糸満漁港内に位置しており、十分な敷地・施設面積を確保するとともに、高度衛生管理（HACCP）認定取得に向け、空調・消毒設備を備えた閉鎖型施設となっています。また、2階には一般来場者向けのギャラリーもあり、セリの様子を見学することが出来ます。

令和4年10月11日に新魚市場において初セリ式が行われ、一番マグロとなるメバチマグロに2万円/kgの高値がつきました。今後、本施設が県内の水産物流通の中心となっていくことで、沖縄の安全・安心な水産物の価値が更に高まることが期待されます。



荷捌施設の位置（糸満漁港）



荷捌施設の外観（R4年3月建設完了）



初セリの様子



初セりに並んだマグロ

「株式会社沖縄 UKAMI 養蚕」(今帰仁村)

「ディスカバー農山漁村の宝」(第9回選定) グランプリを受賞！

2022.11【農林水産部】

内閣官房及び農林水産省は、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を「ディスカバー農山漁村の宝」として選定しています。

第9回となる今年度は、令和4年11月7日（月）に総理大臣官邸で開催された有識者懇談会において応募総数 616 件から 33 団体及び 4 名が選定され、その中でも最も優れた取組であるグランプリに、沖縄県内から「株式会社沖縄 UKAMI 養蚕」(今帰仁村) が選定されました。

同社は、地域の生物資源「エリ蚕」から生産するシルクをスキンケア商品に加工し、ブランド化して海外進出しており、飼料生産には荒廃農地を活用するほか、高齢者雇用や農福連携にも積極的に取り組んでいます。

選定に係る有識者懇談会では、絹産業の非繊維分野への進出に加え、高齢者の健康長寿や、就労支援事業所の利用による障害者の活躍・所得向上にも貢献していることなどが評価されました。

令和4年12月19日（月）には、総理大臣官邸において「ディスカバー農山漁村の宝」(第9回選定) の選定証授与式及び交流会が開催されました。グランプリに輝いた同社の仲宗根代表取締役には岸田内閣総理大臣から楯が授与され、総理や官房長官等の出席者に対して取組内容を紹介し、交流を深めました。



養蚕の作業場における就労支援事業所の利用者による繭の選別作業



エリ蚕の餌となるキャッサバの栽培圃場として 2.4ha の荒廃農地を活用



「生産者の顔が見える商品づくり」を心がけた自社ブランド「VILANJE」のスキンケア商品



選定証授与式における岸田内閣総理大臣から仲宗根代表取締役への楯の授与

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の詳細は、以下の特設HP（外部リンク）を御覧ください。

<https://www.discovermuranotakara.com/>

首里城正殿復元整備工事に着工 ～ 火災から3年、令和8年復元へ向けて！～ 国営沖縄記念公園／首里城地区

2022.11【開発建設部】

首里城公園では、令和元年の火災から3年を経て、正殿復元整備工事に着手いたしました。

整備状況としては、9月に木材倉庫・原寸場（仮設）を完成させ、現在、木材の調達等を進めており、令和5年には正殿を覆う素屋根（仮設）を設置し正殿本体の現地組み立てが始まる予定で、令和8年正殿復元へ向けて整備を推進しているところです。

火災前の首里城



平成 31 年 1 月 5 日撮影

火災直後の首里城(R1.11)



令和元年 11 月 1 日撮影

木材倉庫・原寸場完成(R4.9)



令和4年10月9日撮影

素屋根完成(R5予定) CGイメージ



11月3日に工事の順調な進捗と安全を祈願し「首里城正殿復元整備工事起工式」を行いました。

起工式には、国会議員20名を含む計240名が参加し、岡田沖縄担当大臣等による挨拶、高良技術検討委員会委員長等による祝辞等が行われ、その後、ノミ入れ（正殿に使用する国頭村産オキナワウラジロガシ）を行いました。



岡田沖縄担当大臣(挨拶)



高良技術検討委員会 委員長(祝辞)



セレモニー(木材倉庫内)